

## (財) 交通事故総合分析センター

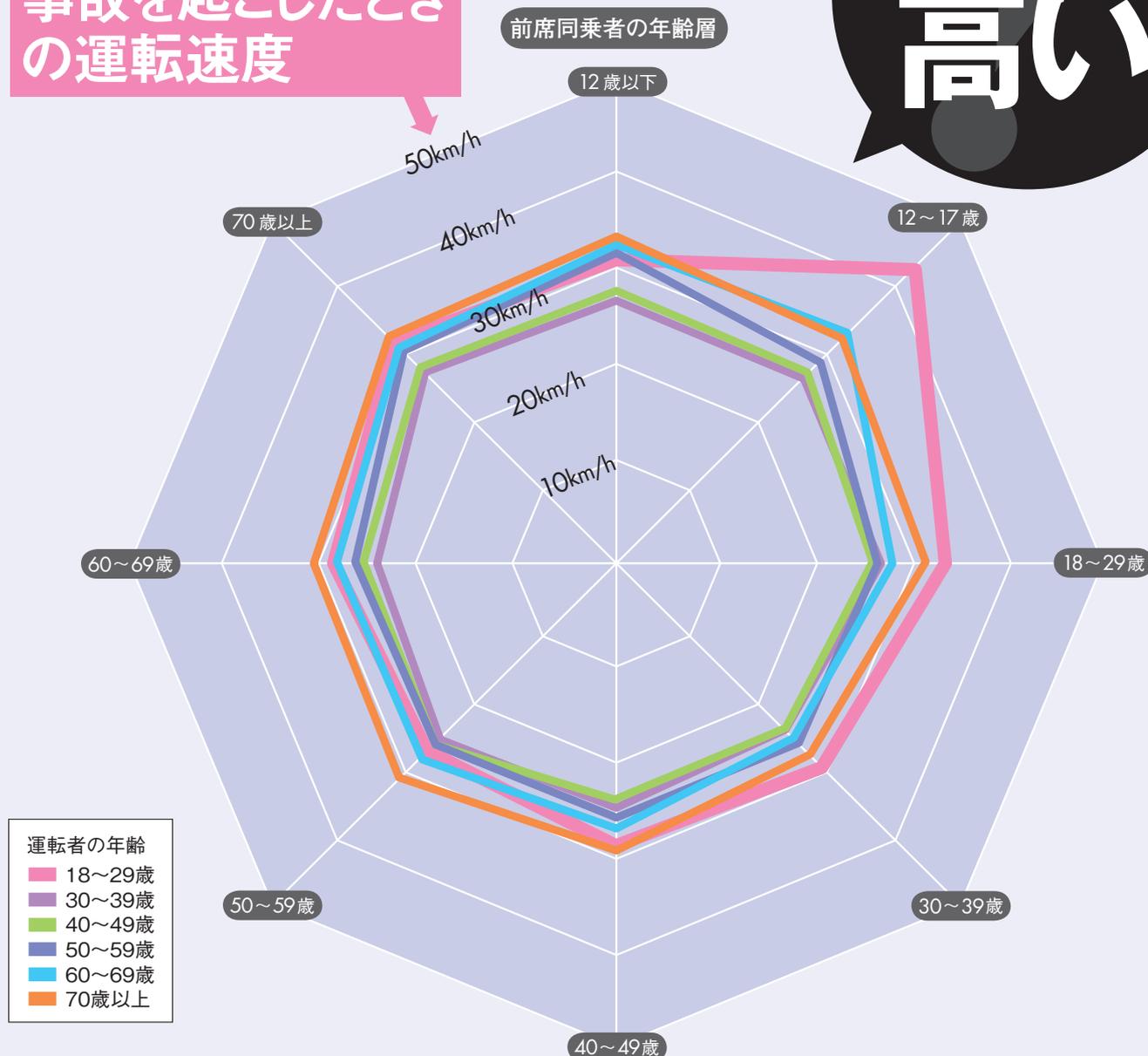
イタルダ・インフォメーション

No. **93** 2012  
FEBRUARY

事故を起こしたときの  
運転速度

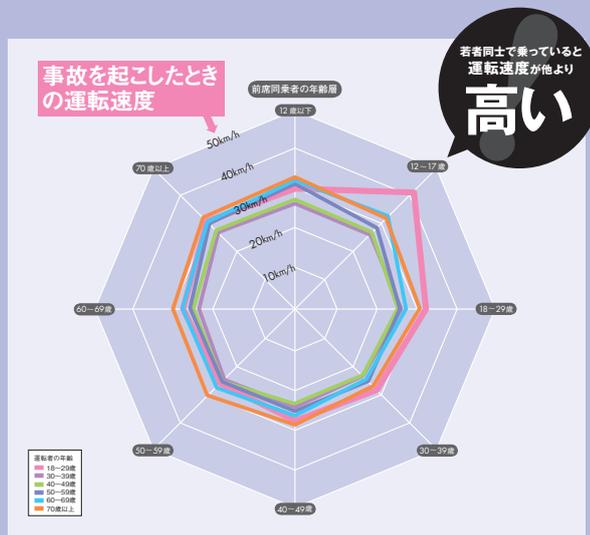
若者同士で乗っていると  
運転速度が他より

**高い**



特集

車に人を乗せるときは、  
こんなことにも注意を



## 特集

# 車に人を乗せるときは、こんなことにも注意を

同乗者がいると、車の運転の仕方が変わるという人は少なくないのではないのでしょうか。一般的には、より慎重になる場合が多いと思いますが、中には“運転がうまいところを見せよう”と無理をしたりする人も居るようです。

今回のイタルダ・インフォメーションでは、同乗者、特に前席同乗者が運転者の運転行動に及ぼす影響について、両者の年齢と関係付けて分析した結果を紹介します。

なお、バスや大型貨物車を除くため、車両空車重量が2トン以下の四輪車を対象とし、2001年から2010年までの10年間の事故データを合計して使用しました。

## CONTENTS

### 主な内容

- 1 同乗者が居た時に事故に遭った運転者の数
- 2 同乗者が居ると安全か
- 3 誰が誰を乗せていることが多いのか
- 4 運転者と前席同乗者の年齢による運転者死亡重傷率の差
- 5 前席同乗者が運転者の運転行動に及ぼす影響
- 6 おわりに

## SECTION

## 1

同乗者が居た時に  
事故に遭った運転者の数

同乗者が居た時の事故はどれくらい起きているのでしょうか。前席または後席同乗者の有無別に事故に遭った運転者の数を表1に、全事故に占めるその割合を図1に示しました。同乗者

が居た時に事故に遭った運転者の割合は、50～59歳では17.0%ですが、70歳以上の高齢者では21.7%、18～29歳でも21.5%と高く、運転者の年齢層により差があります。

表1 運転者の年齢層、同乗者有無別の事故に遭った運転者の数（1・2当合計）

(人)

同乗者有無	運転者年齢層	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	小計
全事故		3108782	2453296	1874365	1938988	1286429	637461	11299321
同乗者なし		2441394	1935445	1514819	1608501	1041425	499025	9040609
同乗者あり*		667388	517851	359546	330487	245004	138436	2258712

\*…前席または後席の同乗者

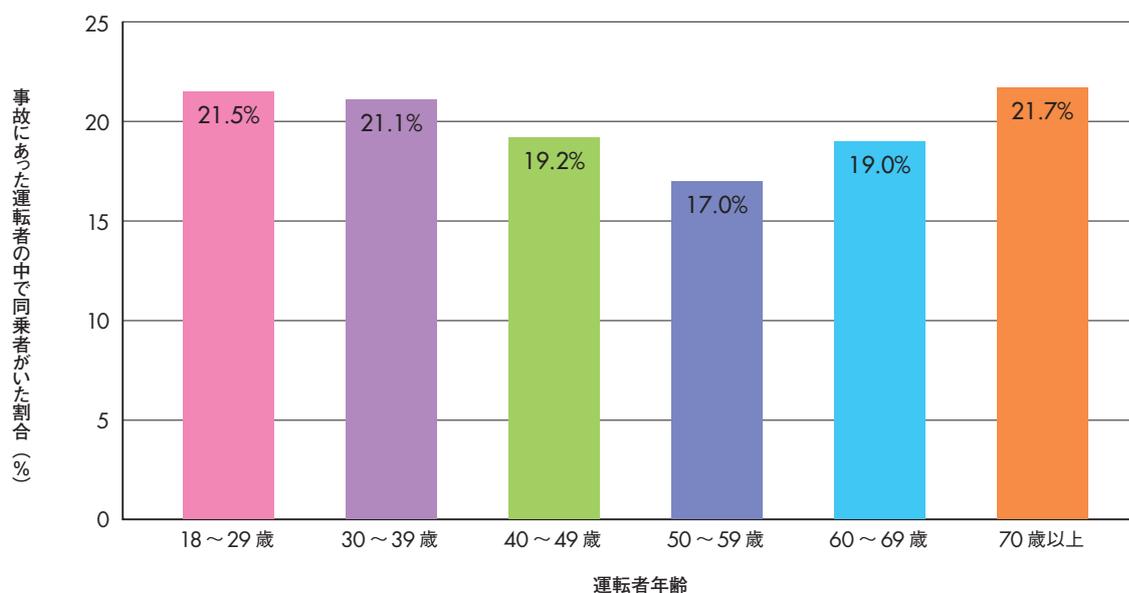


図1 事故にあった運転者の中で同乗者がいた割合

SECTION

2

# 同乗者が居ると安全か

同乗者が居た車と居なかった車に分けて、それぞれの車の運転者の死亡重傷率“運転者死亡重傷率”を計算し図2に整理しました。

$$\text{運転者死亡重傷率(\%)} = \frac{(\text{運転者死者数} + \text{運転者重傷者数})}{\text{運転者死傷者数}} \times 100$$

式から分かるとおり、事故において運転者が軽傷では済まずに、死亡あるいは重傷を負うという重大な事故になる割合です。

図2を見ると、運転者死亡重傷率は運転者の年齢層に関係なく、同乗者が居た時の方が居なかった時より低いことを示しています。すなわ

ち同乗者が居た時の方が、より慎重な運転を心がけていると思われれます。この結果は「同乗者が居た方が事故を起こす危険性が低い」というイタルダ・インフォメーション No.77の結論と同じ傾向を示しています。

また、18～29歳の運転者を除けば運転者の年齢層が高くなるほど、運転者の死亡重傷率も高くなることが分かります。これは年齢が高くなるほど人体の衝撃に対する耐性が低くなること为主要な要因と考えられます。18～29歳の運転者の運転者死亡重傷率が高い理由は、よく言われるように、乱暴な運転をする運転者が少なくないことにもあると思われれます。

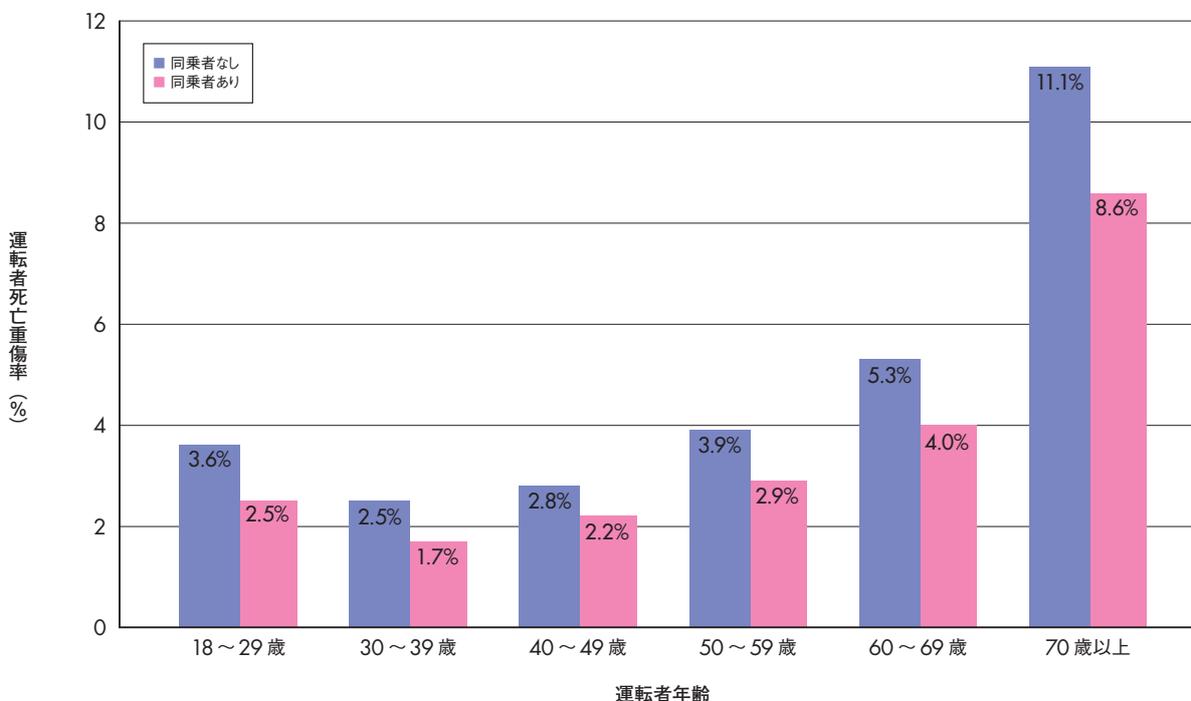


図2 同乗者有無別の運転者死亡重傷率

# 誰が誰を乗せている ことが多いのか

ここまでは傷害の有無を問わず、前席または後席の同乗者を対象にして話をしてきましたが、ここからは、運転者の運転行動に特に強い影響を与えられる前席同乗者、中でも事故で死傷した前席同乗者に注目して話を進めます。

表2と図3には運転者と前席同乗者の年齢相関別での事故に遭った運転者数を示しました。

これから前席に同乗者が居た事故の多くでは運転者と前席同乗者の年齢層は同じで（表2の赤色塗りつぶし部分）、とくに18～29歳の若者運転者と70歳以上の高齢運転者でその傾向が顕著であることが分ります（図3で、運転者と前席同乗者が同年齢層である割合が18～29歳で70%、70歳以上で60%）。

表2 運転者と前席同乗者の年齢相関別での事故に遭った運転者数（1・2当合計）

運転者 \ 前席同乗者	12歳以下	13～17歳	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
18～29歳	13888	11639	215994	27731	13298	19971	4163	2380
30～39歳	34445	6430	41027	82302	17113	12888	14046	3217
40～49歳	13730	19248	19912	22960	41584	12938	7423	9361
50～59歳	2843	3915	19312	9214	18952	53052	13545	11053
60～69歳	2373	853	3365	6111	3640	22666	46239	10238
70歳以上	683	756	620	757	1389	1840	16308	33747

(人)

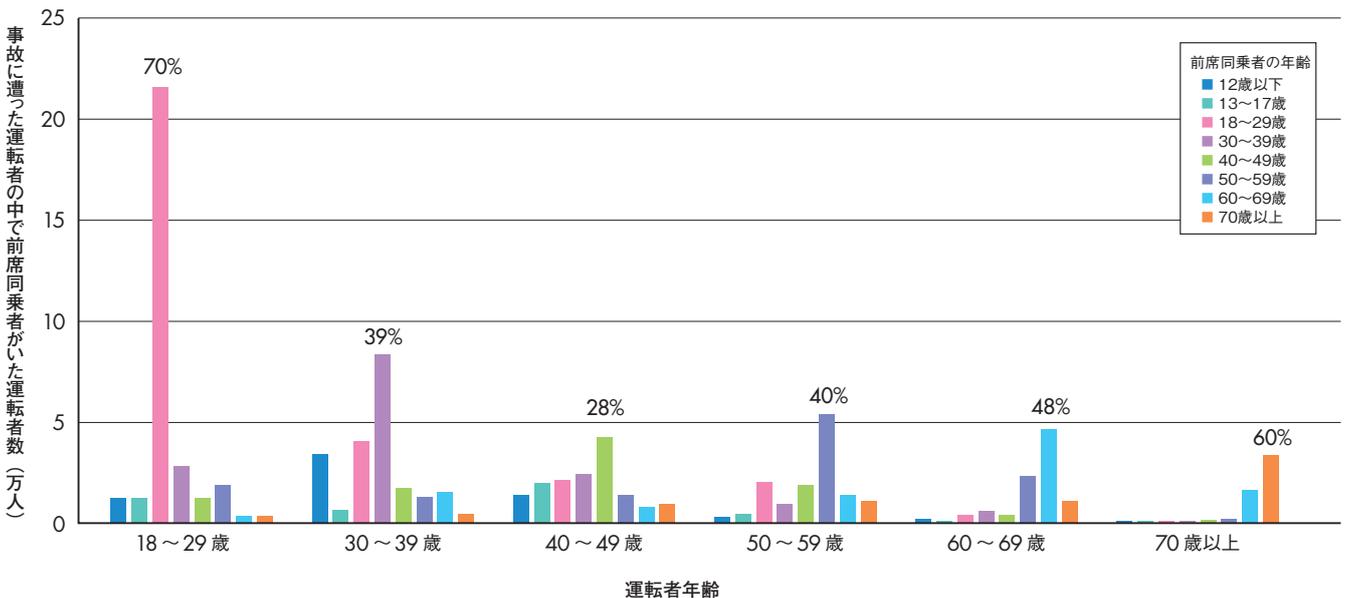


図3 運転者と前席同乗者の年齢相関別での事故に遭った運転者数

SECTION

4

# 運転者と前席同乗者の年齢による運転者死亡重傷率の差

運転者死亡重傷率を運転者と前席同乗者の年齢層相関別に図4に示しました。

図2の結果と同様、運転者が高齢になるほど、運転者死亡重傷率が顕著に高くなることが分かります。図4を眺めると、もう一つの特徴に気がつきます。すなわち18～29歳の運転者では前席同乗者の年齢層が13～17歳のとき、運転者死亡重傷率が極端に高い傾向があるのです。

運転者の運転行動、具体的には運転速度とシートベルトの着用状況から、その理由を考えて見ましょう。

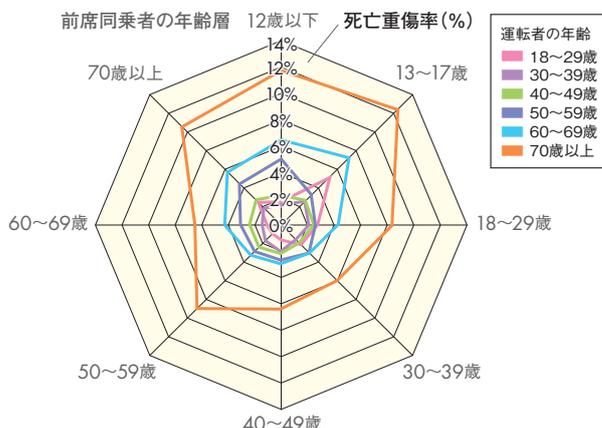


図4 運転者と前席同乗者の年齢相関別  
運転者死亡重傷率

SECTION

5

# 前席同乗者が運転者の運転行動に及ぼす影響

(1) 事故を起こしたときの運転速度への影響

運転速度としては、運転者が事故の危険を認知したときの走行速度“危険認知速度”を、運転者と前席同乗者の年齢相関別に図5に整理しました。

18～29歳の運転者の場合、13～17歳、18～29歳という自分と同じ、あるいは少し下の年齢の人を前席に同乗させていた時の運転速度が、その他の前席同乗者の時に比べて5～10km/h以上も高いことが分かります。若者同士ということ気分が高揚しがちになり、“格好いいところを見せたい”という意識が窺えます。18～29歳以外の運転者では前席同乗者の年齢層に関係なく、運転速度が30km/h付近に集中していることは対照的です。

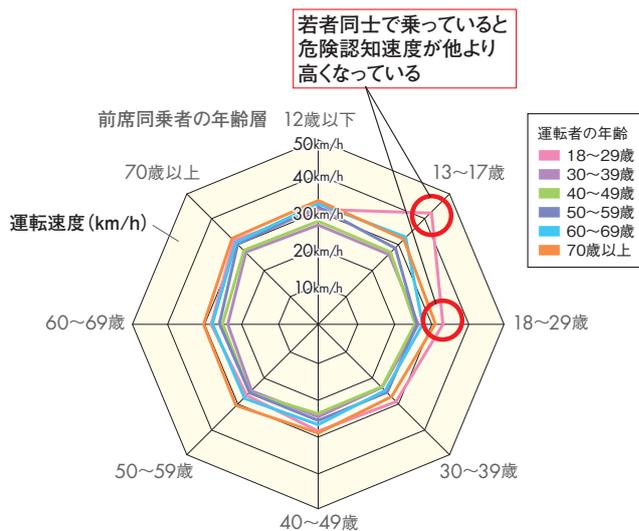


図5 事故を起こしたときの運転速度

## (2) シートベルト着用者率への影響

次に、事故に遭った時の運転者のシートベルト着用状況を図6に整理しました。18～29歳の運転者のシートベルト着用者率は、前席同乗者の年齢が13～17歳である時には目立って低くなり、前席同乗者の年齢層が18～29歳、12歳以下、30～39歳の時でも、その他の年齢層の前席同乗者の時に比べ低い傾向があります。やはり乗員が若者ばかり（後席同乗者は分かりませんが）で車に乗るときは気持ちが緩むようです。

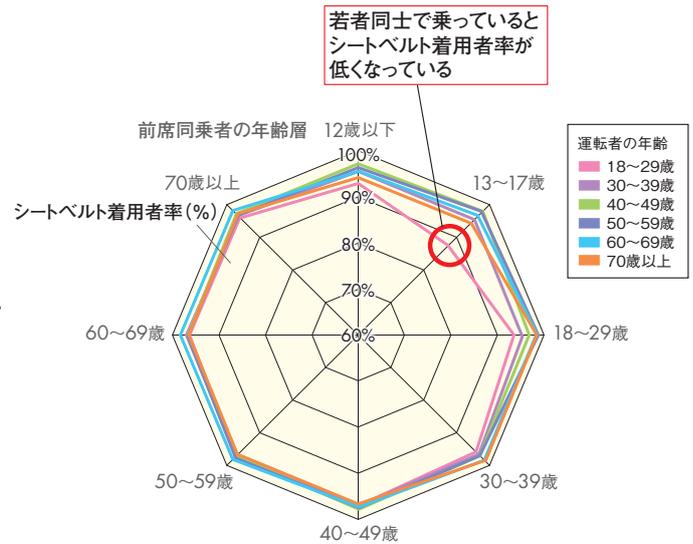


図6 運転者のシートベルト着用者率

一方、前席同乗者のシートベルト着用状況はどうでしょうか、図7に整理しましたが、運転者も前席同乗者も若者である時は、運転者同様に前席同乗者のシートベルト着用者率は低いことがわかります。どうも、互いに悪い影響を及ぼし合っているようにみえます。

図7をもう一度見てください。12歳以下の子供が前席に同乗している時の子供のシートベルト着用者率が低いことに気がつきます（この場合のシートベルトにはチャイルドシート（乳児用、幼児用、学童用など）も含めています）。この傾向は、特に運転者が50～59歳、60～69歳、70歳以上であるとき、すなわち、普段は子供を同乗させる頻度が低いと考えられる人達（祖父母と孫の関係でしょうか）が、たまに子供を乗せるような時に強く見られます。本来、子供は後席に座らせるべきなのですが、つい甘くなるということかも知れません。また、このような人はチャイルドシートなどの準備ができていないことも要因の一つと考えられます。

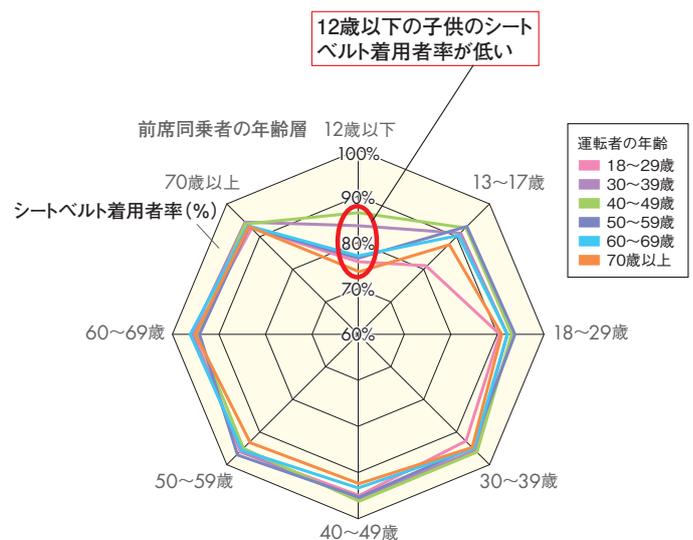


図7 前席同乗者のシートベルト着用者率

## おわりに

## ① 若い運転者に対して

若者の同乗者が前席に乗ると速度を出し過ぎたり、シートベルトを着用しないなど、安全への配慮が疎かになるようです。“格好いい”ところを見せたいのかも知れませんが、事故を起こしたり同乗者に怪我を負わせたりすることは、惨めで最も“格好わるい”ことです。同乗者が居る時こそ安全運転に心がけ、自らが進んでシートベルトを着用するとともに、同乗者にもシートベルトの着用を勧め、運転速度も控えましょう。

## ② 高齢の運転者に対して

孫などを不用意に自分の車の前席に乗せることは止めましょう。12歳以下の子供は後席に乗せることがより安全です。その場合でも、6歳未満の幼児はチャイルドシートを使用させることが義務づけられていますし、6歳以上であっても12歳以下の子供はその体格に合ったジュニアシート、ブースターシートを使用することが推奨されています。

国土交通省道路局からのお知らせ

## 「道路ふれあい月間」 標語募集

**テーマ** 道路は、生活の向上と経済の発展に欠くことのできない国民共有の、つまりあなたの財産です。みんなが道路と親しみ、ふれあい、常に広く、美しく、安全に、共に楽しく利用し、子孫に受け継いでいきましょう。

●優秀賞には、賞状と楯が贈呈されます。

**応募期間** 平成24年3月30日(金)まで(当日必着)

**応募方法** ホームページをごらんください  
[HP] [http://www.mlit.go.jp/report/press/road01\\_hh\\_000235.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000235.html)

**問い合わせ先** 国土交通省道路局道路交通管理課 [総務係] 田中/小原  
[TEL] (代表)03-5253-8111 (内線)37423/37424  
[mail] [dourohyogo24@mlit.go.jp](mailto:dourohyogo24@mlit.go.jp)